

2011.4.2 No.11

九州産業大学 国際交流センター報

JUNCTION

CONTENTS

交換留学体験記～派遣～	2
交換留学体験記～受入れ～	4
異文化理解シンポジウム	5
九州産業大学派遣留学案内	6
留学生会から新入留学生のみなさんへ	7
日本語弁論大会	8
留学生の四季	10
小学校訪問	11
平成 22 年度国際交流の歩み	12





交換留学体験記～派遣～

Outbound Exchange Program



リバプールの駅で先生、友人達と（中川さん：中段右から3番目）

自分の成長と留学の成果

中川 央子

経営学部国際経営学科4年

派遣先：リバプール・ジョン・モーズ大学（イギリス）

派遣期間：平成22年8月～平成23年1月

私は留学に行く前に目標を立てていきました。それは、『日常会話の向上』です。

イギリスのリバプールに到着するとすぐに、リバプール・ジョン・モーズ大学の4週間のサマーコースが始まり、大学の授業で必要となるエッセイの書き方、プレゼンテーションの方法などを学びました。しかし、留学生活が始まって間もない頃に、私は早速大きな壁にぶつかりました。留学前に日本で英語の勉強をして、しっかり準備してきたつもりだったのに、先生や現地の人々の英語が聞き取れないばかりでなく、授業中のディスカッションでも他国からの留学生と英語での会話が全くできなかったのです。

それからは、放課後に授業の復習、知らない単語の単語帳作り、リスニングのトレーニングなどに励みました。しかし、サマーコースも終わりに近づくと、先生の英語にも慣れ、たくさんの素敵な友達もでき、エッセイやプレゼンテーションの課題などもクリアし、とてもきつかった4週間のサマーコースでしたが、これで本当に大学の授業を受けるための基礎作りができたと思いました。私はこの時、壁は叩けば崩せるものだと実感しました。

4週間のサマーコースが終わり、リバプール・ジョン・モーズ大学での留学生活が本格的に始まりました。大学の授業は、レクチャー（講義）とチュートリアル（少人数）の2つに分かれており、レクチャーの授業では先生がパワーポイントを使って授業を進め、チュートリアルの授業では少人数のクラスに分かれて授業の内容の理解を深め、主にディスカッションをしました。

私は、リバプール・ジョン・モーズ大学で言語・文化・ビジネス関係の授業を選択していました。言語の授業では、日本語で書か

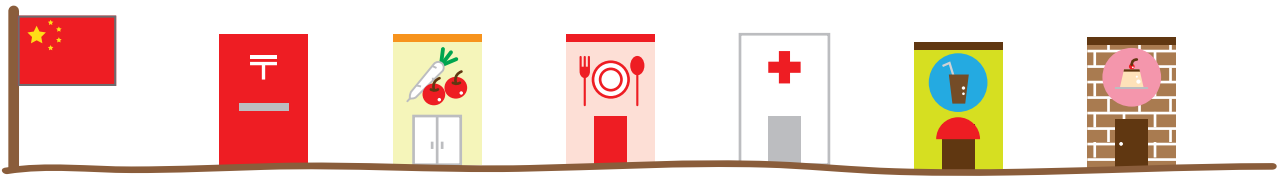
れている物語を英語へ、そして英語から日本語への訳し方を学びました。文化の授業では、フランス・スペイン・中国・日本の交換留学生がたくさんいて、それぞれの国の文化の違いなどを学び、他の国の学生とも話ができ友達になることができました。そして、ビジネスの授業では、多国籍企業や中小企業について学びました。私は、九州産業大学で多国籍企業や中小企業について学んでいたため、その授業を英語で受けるという新鮮さがありました。また、この授業はイギリスの視点で考える内容だったのでとても勉強になりました。大学の授業で驚いたのが、イギリスの学生の発言力です。先生が授業を進めていても分からないところはすぐに質問したり、積極的に自分の意見を言ったりします。日本とは異なる授業の雰囲気だったので面白いと感じ、こういう積極的な部分は見習わないといけないなと思いました。ビジネスの専門用語などの分からない単語も増え、毎日授業の復習をしました。授業でエッセイの課題が出ると、まず英語で書かれている課題内容の確認をし、そして必死に課題の内容を調べました。夜中まで図書館に残ってエッセイを書くこともありました。

この大学生活で全てにおいて助けてくれたのが、リバプール・ジョン・モーズ大学で日本語を勉強している学生のサークル、Japanese societyのメンバー達です。私のウェルカムパーティーや素敵なバースデーパーティーを開いてくれたり、私が早く大学や友人に馴染めるように手助けしてくれました。彼らがいなかったらこそ交友関係も広がり、大学生活もスムーズに過ごせたと思います。

大学の前期授業が終わった後は、友達と一緒にフィンランドとドイツへ旅行に行きました。フィンランドにはオーロラ観賞、そしてサンタクローズに会うという目的で行きました。残念ながらオーロラは現れず見ることはできませんでしたが、代わりにダイヤモンドダストが見れ、小さい頃からの夢だったサンタクローズ村でサンタクローズに会え、とても感動しました。また、ドイツでは、世界最大のクリスマスマーケットのシュトゥットガルトや世界一有名なミュンヘン、その他にもフランクフルト、ケルン、ハイデルベルクなどたくさんのクリスマスマーケットを回りました。どこもイルミネーションがすごくきれいで素敵なおとこでした。

年末にはロンドンに行き、世界の時刻の中心であるビッグベンでカウントダウンをして新年を過ごしました。1月1日の0時になった瞬間に花火があがり、迫力満点の素晴らしい新年の瞬間を過ごすことができました。

私は最初に目標を立てて留学に行ったと書きました。イギリスに来て5か月経った頃、私はロンドンにいるアメリカ人の友達に会いに行ったのですが、その時、自分でも驚くほど以前に比べ英語でコミュニケーションができ、初めて自分の成長に気がつきました。そこで『日常会話の向上』という目標を達成することができたのだと実感しました。また、この留学で学んだことは英語や文化以外にもたくさんあり、目には見えないけれど人間的にたくさん成長したと思います。私にとってこの留学はとても意味のある留学になりました。この留学での経験を無駄にしないように、これから日本でも英語の勉強やイギリスの文化について深く追求したいと思います。



誕生日パーティーで友人達と(長さん：前列中央)

泣いて笑って感謝して

長 陽加里

国際文化学部国際文化学科4年

派遣先：中国人民大学(中国)

派遣期間：平成22年9月～平成23年1月

中国への留学、それは大学入学時からの目標でした。「他の人ができない経験をしたい!」という強い思いからです。その後中国語のサークルに入り、様々な大会にも参加して、私の中で中国という国がすごく身近に感じられるようになりました。交換留学の制度があることを知り、合格できた時は本当に嬉しかったのを今でも覚えてます。

まず私が人民大学に来て驚いたことは、キャンパスの広さです。広いとは聞いていましたが予想よりはるかに広く、最初のころは何処に行くのにも迷ってしまい、大学の地図が手放せませんでした。大学の中には郵便局、病院、カフェ、スーパーなどがあり、学内にいながら必要な物は全て揃えることができたのでとても便利でした。大学自体とても便利な場所にあり、少し歩けば地下鉄の駅やバス停が、また「家乐福」という大きなスーパーもあり、生活で困ることはありませんでした。

私が住んでいたのは留学生寮1楼という12階建ての学生寮で、そこには色々な国の方がおり、「何処の国から来たの?」「この言葉は日本語で何て言うの?」というような質問をきっかけに友達がたくさんできました。また、寮のロビーは24時間体制で警備されており、何か困ったことがあったらすぐに対応してくれるので安心して暮らすことができました。

人民大学では最初にクラス分けテストとして筆記試験と面接がありました。面接では中国語を勉強してどのくらいか、毎日どのくらい勉強しているのか、どのクラスに入りたいかなどを聞かれました。私が入った中級A2のクラスは全部で25人ほどおり、日本人が私を含めて4人、あとは韓国人、欧米人がほとんどでした。クラスメートは中国語を流暢に話せる方ばかりで、まずその語学力の高さに

驚きました。授業も進むのが早く、ほとんど聞き取れず、その中で欧米人や韓国人は積極的に発言していて、質問すらできない私はただおろおろするばかりでした。部屋に帰ると悔しさと不安で涙が止まりませんでした。「早く日本に帰りたい…」ずっとそう思っていました。

そんな中、日本人会の方たちが新入生歓迎会を開いて下さり、その時に初めて他の日本人留学生に会いました。そこからまた友達ができ、一緒に出かけたりするうちに、自然と笑っている自分に気がつきました。また、人民大学では毎年10月に国際文化祭という行事があります。色々な国の方たちが自分の国の料理を紹介したり、特産品を出展するととても盛り上がる一大イベントです。そこでも私はたくさんの友達を作ることができ、普段関わることがない国の方と交流できるというのはすごく楽しいことだと感じました。日本では当たり前前の習慣でも、他の国ではその習慣がなかったりと、文化の違いに驚くことも多々ありました。

私が授業で一番苦労したのは「^{リスニング}听力(聞き取り)」と「^{スピーキング}口语(会話)」の授業でした。听力の授業は内容理解よりも、ただ聞くことだけで精いっぱいだったので、放課後に自分でCDを聞いて復習しました。口语の授業は、ほとんどがディスカッションで、日本では経験したことのないことばかりでとても苦労しました。しかし、一か月もすると授業もだんだんと聞き取れるようになり、クラスメートとも中国語で会話ができるようになりました。先生が言ったことが理解でき、質問に答えることができると本当に嬉しくて「もっともっと頑張りたい!」と思うようになりました。そこまで思えるようになったのは、一度悔しい思いをして、その後、時間はかかりましたが、私なりに中国語を必死で勉強したからです。

私の勉強法は、午前中に授業が終わるので午後は友達との会話の時間を作るようにしました。特に自分より中国語の出来る友達をつかまえて話すようにしました。机に向かう学習も大切だと思いますが、人と話すことが中国語を上達させる一番いい方法だと思ったからです。留学する前は、中国に行ってから、ちゃんと中国語を勉強しようと思っていたのですが、いざ留学してみると、授業の予習・復習・宿題に追われる毎日で、予想以上に時間が取れず、日本で十分準備をしてこなかったことを、今すごく後悔しています。

中国の習慣や大学の授業にも慣れてきた頃に帰国しなければいけなくて、本当にあっという間の留學生活でした。大学で始めた中国語がきっかけで、中国留學という目標を達成できたことを本当に嬉しく思います。この留學を通じて、私はたくさんの方の力を借りていることに気づかされました。私が不安な時いつも励ましのメールをくれ応援してくれた家族や友人、困った時に優しく助けて下さった日本人会の方々、そして私に留學という貴重な経験の機会を与えて下さった大学の先生方、私が無事に留學生活を終えることができたのも、こうしてたくさんの方に気付くことができたのも、いろいろな方の力があつたからこそだと思っています。本当にありがとうございました。今後は中国語を活かせる仕事、中国に関係のある仕事をしたいと思っています。そのためにもっと中国語を上達させることが、今の私の目標です。



交換留学体験記～受入れ～

Experience of Studying at KSU

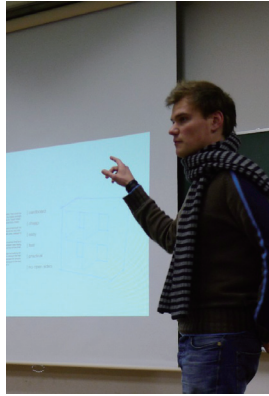


9,167Km

ベンジャミン・レンプラー

シュトゥットガルト造形美術大学
(ドイツ)

受入れ期間：平成 22 年 9 月
～平成 23 年 1 月
受入れ学部：芸術学部



9,167km-タイトルにあるこの数字はシュトゥットガルトと福岡の距離です。水と大陸が続くこの約9,000kmという距離は、2つの都市を地理的にも文化的にもとても遠く感じさせます。地理的に遠いことは明らかですが、文化的差異はこの留学中に自ら体感することになりました。

九州産業大学には、ドイツ以外に韓国、中国、フランス、イギリスからの交換留学生が来ていました。全員同じ寄宿舎に住んでいたため、何か手続きで分からないことがあった時には相談でき、また様々な国の出身の彼らと一緒に過ごすことで日本以外の文化にも触れることができました。

日本に来て一番ショックだったこと、それは、日本人学生の大半が英語を話せないということです。時々、少しでも英語を理解してくれる学生もいましたが、仲良くなるまでの意思疎通には至りませんでした。日本ではヨーロッパほど英語が浸透していないということは来る前から分かっていたのですが、自分の年に近い学生なら、ある程度は話せるものだと思い込んでいたので、予想外に言語の壁に阻まれ自分の言いたいことを分かってもらえず、日本人の学生と友達になるのがとても大変でした。

授業は週に6つ、日本語、生活デザイン実習、人間環境デザイン演習、卒業研究、CAD 実習をとりました。人間環境デザイン演習の授業では、簡単にたためる段ボール製の棚を作り、生活デザイン実習の授業では、一般的な雑貨屋で買える基本的な工具を使って組み立てられる合板のテーブルをデザインしました。また、他の交換留学生と一緒に受けた日本語の授業では、先生が「書く」という作業よりも、たくさんの写真や絵などを使って説明してくれたので、早く上達し、日に日に日本語に自信を持つことができました。

休暇を利用して京都、名古屋、東京に旅行したときは、たくさんの神社を訪れ伝統的な日本文化というものに触れることができました。さまざまな日本料理を楽しみ、大晦日には東京タワーで大勢の人と一緒に新年を祝いました。

西洋文化と日本文化を比べて一番違うと感じたのは、人と人との関わり合い方だと思います。日本で人と接するとき、雰囲気は常に

和やかであり、とてもリラックスできました。ドイツ人は自ら外に出て積極的に人と関わり合いを求めますが、日本人は極力目立たないようにし、人との同調性を求めます。それは人を思いやり、傷つけないようにするための行動だと分かりました。例えば、誰かが道に迷っていたりアドバイスを必要としている人を見つけた時、日本人は親身になって助けようとしてくれます。一方ドイツでは、例えばお店やオフィスに入ると、店員や職員たちは今取り組んでいる作業を邪魔されたと感じるのか、一般的にあまり友好的な対応は示しませんし、それがあからさまなので、むしろこちらが悪いことをしているのではないかと感じることもさえます。しかし、日本はそうではありません。世紀を超え、長い間一緒に生きてきた各個人が「他人への尊敬の意を示す」という考えを持っているという文化は素敵だと思います。またそういった日本の文化が、日本の暴力や犯罪率の低さにも繋がっているように感じました。

しかし、逆に「問題点に気づかない」というデメリットもあります。例えば誰かが何か間違っていたとしても、ダイレクトに指摘してしまえばその人を傷つけてしまうかもしれないという気持ちから伝えられず、当人は間違っていることさえ知ることができないのです。自分の知らないところで何かが本当に間違っているのに、他人に気を遣うがゆえに誰もその間違いを指摘できない、そのような事態にもなりかねないと感じました。

しかし、文化の違いはあるけれど、一般的に日本人は明るく朗らかで、友人だけでなく自分の周りにいる学生、何度かしか会ったことのない人とも本当に楽しい時間を過ごすことができました。あと半年長く日本に滞在できたら、もっとたくさんの街や場所、そして日本で有名な桜の花が咲き誇るのをこの目で見るのでしたかった、とても残念です。

5カ月の留学を終えて今思うことは、日本には見てみたいものや体験してみたいものが多すぎて、一度の滞在では満足できないということです。きっと日本に来たすべての人が、もう一度日本に来たいと思うに違いありません。もちろん私もそう思います。今回は留学という形でしたが、また何らかの形で日本に戻って来たいと思います。



九州産業大学開学 50 周年記念式典・祝賀会



異文化理解シンポジウム

Cross-cultural symposium



2010年5月15日(土)、15号館15102番教室にて異文化理解シンポジウムが行われました。

まず2009年度派遣留学生9名が、これから留学を希望する学生達に留学成果の報告や留学に関するアドバイスを行い、パネルディスカッションで、土井経営学部教授の進行のもと、留学先で経験したことや日本と海外との文化や習慣の違いについて語るなど、各自、留学生生活を振り返ることができる会となりました。

最後に行われた講演会では、藤田国際文化学部講師が異文化理解について講演し、留学や異文化理解に対する理解が深まる貴重なシンポジウムとなりました。



パネルディスカッションの様子



「異国で学ぶとは」

国際文化学部臨床心理学科
藤田 尚志 講師

私が外国に初めて行ったのは約20年近く前になりますが、今回派遣留学に行った皆さんとは大分、状況や感じ方が異なると思います。私は2000年～2006年の7年間フランスに滞在し、フランス哲学を研究してきました。その期間何とかフランス人達と対等にフランス哲学をやっていきたくて思っていました。外国で暮らす、外国で学ぶ、それは今まで自分たちが当たり前のように思ってきた見方とは違う見方もあるんだということを身をもって体験することだと思えます。

どこか一つの場所に定住したり安定したりすると、やはり物事の見方が固定され、自分は絶対こうなんだと決めてかかってしまうことがあります。自分はこうなんだからこういうことはできないといった具合です。けれど本当にそうなのでしょうか？自分は本当に固まったものなのだろうかという気持ちが留学をする一番の根本部分にあるのではないのかなと思います。

私がフランスに行った時、日本との文化の違いに驚いたように海外に行くとき々な文化の違いに皆さん驚かれたことでしょう。その中でも私がフランスで一番感銘を受けたのは、「連帯」です。日本とは違い、フランスではお互いがお互いの存在意義を認めあうという意識が非常に強いように思えました。また、地域によっても価値

観や人生観の相違が多々あります。

留学で勉強するにあたって頑張ることが大切ですが、頑張ると言っても精神論だけでは駄目です。頑張るということは明確な方法と目標を持たなければなりません。語学というものは一生懸命やればやっただけ必ず身に付きます。フランスで私は辞書とメモを常に持ち歩いてました。気になったことは何でもメモを取りました。どのようなことでもいいのです。友達が言った冗談が面白ければそれをメモに取り、美術館で少し気になった表現があればそれをメモすれば良いのです。メモしても忘れることはありますが、一度書けば何となく引っかかる、何となく聞き覚えがあるということに繋がっていきます。記憶と一緒に書くことにより蓄積されてきます。あと質問する勇気が重要です。外国に行って恥ずかしがるだけでは駄目です。恥ずかしいことに打ち勝ってこそ留学している意味があります。

留学中、西洋人と付き合うためには、相手の土俵に立つことが大事です。西洋では基本的にアジア人には無関心です。話しかけられるのを待っているだけでは駄目です。自分から積極的に話しかけることが重要です。ただその時に自分を卑下したり、相手に媚びてはいけません。自分を謙遜する言い方や相手に気を遣う言い方は海外ではしばしば誤解を招きます。

最後に海外で学ぶことの意味とは自分自身を魅力的な異国人にするということではないかと思えます。外国を学ぶことで自分自身を少し異国の人にしてしまうこと、それによって魅力というものをつける、それが異国で学ぶ意味ではないかと思えます。それは言い換えると、さすらい心を持ち続けるということと繋がってくるのではないかと、自分はこうであると決め付けずに何か新しいことをしていく、それが異国で学ぶということです。

※掲載されている文は講演内容をいくつか抜粋したものです。



九州産業大学派遣留学案内

Guide of Studying Abroad

交換留学

イギリス



リバプール・ジョン・モーズ大学
<http://www.ljmu.ac.uk/>



リーズ・メトロポリタン大学
<http://www.lmu.ac.uk/>

フランス



リール・カトリック大学
<http://www.univ-catholille.fr/>



アビニョン・クリスチャン大学
<http://www.acu.edu/>

韓国

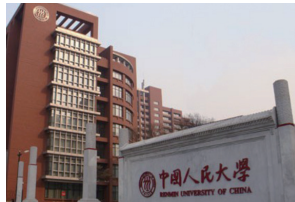


東亜大学校
<http://www.donga.ac.kr/>



東国大学校
<http://www.dongguk.edu/>

中国



中国人民大学
<http://www.ruc.edu.cn/>

九州産業大学では、国際文化学部、経済学部、商学部第一部・第二部、経営学部の学部生を対象とし、8月から翌年1月までの6ヵ月間、派遣留学生として交換留学協定校に派遣しています。選考試験については、下記のとおりです。

■英語圏（書類審査、TOEFL ITP、面接）

■フランス、中国、韓国（書類審査、語学能力試験、面接）

英語圏に留学を希望する方は、TOEFLやIELTSのスコアアップを目標に取り組んでみましょう。

□ TOEFL <http://www.cieej.or.jp/toefl/toefl/register.html>

□ IELTS <http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

また、芸術文化交流を目的とし、ドイツとフランスへ芸術学部の学生を派遣しています。ドイツへの派遣期間は10月から翌年2月までの5ヵ月間、フランスへは、隔年で9月から12月までの3ヵ月間派遣しています。（平成23年度派遣予定）

募集時期、選考内容等については、お気軽に国際交流センターまでお問い合わせください。

芸術学部交換留学

ドイツ



シュトゥットガルト造形美術大学
<http://www.abk-stuttgart.de>

フランス



ボルドー美術学校
<http://www.bordeaux.fr/>

交換留学スケジュール(2010年度実績)

2009年	9月	
	10月	
	11月	
	12月	派遣留学募集説明会 願書配布
2010年	1月	願書締め切り 派遣留学生 第一次選考試験（筆記試験）
	2月	派遣留学生 第二次選考試験（面接）
	3月	派遣留学生決定
	4月	
	5月	派遣留学手続き開始 事前研修（5月中旬～7月中旬）
	6月	ビザ手続き
	7月	出発前オリエンテーション
	8月	出発
	9月	交換留学
	10月	
	11月	
	12月	
2011年	1月	帰国
	2月	事後研修（2月～3月）
	3月	
	4月	
	5月	派遣留学報告会



留学生会から新入留学生のみなさんへ

Greetings from International Student's Union



2010年度九州産業大学
留学生会会長

李 超 (中国)

新入留学生の皆さん、九州産業大学への入学おめでとうございます。

私は2010年度九州産業大学留学生会会長の李超と申します。皆さんは母国を遠く離れ、希望や夢を持って九州産業大学に入学しました。まずは新入留学生の皆さんそれぞれが自分自身の明確な目標を持つことを心がけてください。そして大学を卒業するまでにその目標を達成できるように、頑張ってください。大学4年間というのは長いようであつという間に過ぎてしまいます。大学は皆さんの基礎知識をしっかりと固めてくれ、大学4年間の「学習」と「生活」は社会人になる前になくはならない成長の糧となります。そのような貴重な時間を皆さんは決して無駄にしないようにしてください。

私たち留学生会は、皆さんが充実した大学生活を送れるよう全力でサポートしています。留学生同士の交流を活性化させる為に、新入留学生歓迎バスハイク、サッカー大会、ボウリング大会やバーベキュー、大学祭の模擬店出店など様々な交流イベントを企画しています。イベントに参加することにより、友人の輪が広がり、楽しい思い出が必ずできるはずですよ。ぜひ積極的にイベントに参加してください。もちろん、留学生会に入り留学生の為に一緒にサポートしてくれる志の高い新入留学生の方も大歓迎です。

最後に、皆さんが九州産業大学に入っても日本に来た初心を忘れず、貪欲に勉学に励み、何事にも努力し、留学生活に悔いが残らないよう楽しく充実した生活を送れることを心より願っております。

九州産業大学留学生会とは



九州産業大学留学生会は、平成2(1990)年4月に留学生相互の親睦と友好を深め、勉学に励み、国際交流に寄与することを目的に作られた在籍する留学生のための組織です。主な活動としては、新入留学生バスハイク、異文化交流、ボウリング大会、大学祭での模擬店参加、日本語弁論大会への参加、小学校との交流、地域住民との交流などがあります。

留学生会では、留学生のみなさんが楽しめるよう有意義な活動を目指して、計画を練っています。留学生会を通じて、留学生相互の親睦をはかったり、貴重な情報を共有したり、さまざまな体験ができると思います。



留学生会主催バーベキュー大会



福岡県留学生会主催サッカー大会



香椎祭にて模擬店出店



2010年度留学生会役員

日本語弁論大会

Japanese Speech Contest



留学生達が熱き思いを込めて感動のスピーチを！

平成 22 年 11 月 27 日 (土) 2 号館 2E307 番教室において「第 3 回留学生による日本語弁論大会」が開催されました。日本での発見や驚き、自国の文化、その他にも個性溢れる幅広いテーマで 15 人の留学生が熱き思いをマイクに込めました。会場からは時折、どよめきや拍手が起こり、感動的なスピーチでは涙が流れました。



ジョ ショショウ
徐 初照 (中国)
国際文化学部(交換留学生)
「感謝の気持ちを持って幸せになろう！」



ソン ヘワン
孫 慧原 (韓国)
経営学部 (交換留学生)
「日本のオタク文化における私の考え」



バ ケイエイ
馬 慧穎 (中国)
工学部物質生命化学科
「こんにちは」



マツノブ タミ
松延 多美 (ブラジル)
国際文化学部(県費留学生)
「日系人とは…」



ウィルソン リュング
(イギリス)
国際文化学部(交換留学生)
「ロンドン～私の出身地」



パトリック オルティン
(ドイツ)
芸術学部 (交換留学生)
「HAIKU ～俳句」



グー ゲン
古 元 (中国)
国際文化学部日本文化学科
「感謝の気持ち」



オウ ホウ
王 峰 (中国)
国際文化学部日本文化学科
「自分の人生を自分で決める」



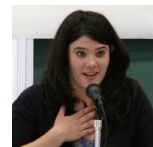
オガタ ティアナ (ボリビア)
商学部第一部(県費留学生)
「ボリビア文化対日本文化」



リュウ シンタク
劉 晋澤 (中国)
国際文化学部日本文化学科
「もし私が先生だったら」



ケティ スミス
(イギリス)
経営学部 (交換留学生)
「私の故郷」



コリン ガロ (フランス)
芸術学部 (交換留学生)
「日本人の友達」



ベンジャミン レンブラー
(ドイツ)
芸術学部 (交換留学生)
「シュトゥットガルト」



チョウ ヒョンジョン
趙 峴靜 (韓国)
国際文化学部(交換留学生)
「留学生活で感じたこと」



リン カンカ
林 瀚華 (中国)
経営学部産業経営学科
「私の生い立ち」



日本語弁論大会風景



日本語弁論大会発表者



今回は、数ある発表の中から、日本に留学した当初の自分を振り返り、日本での新たな発見について語ったブラジル出身、松延多美さんによる発表を紹介します。



「～日系人とは～」

マツノブ タミ
松延 多美さん

(ブラジル/県費留学生)

皆様、こんにちは！私は松延多美と申します。私はブラジル日系人3世です。日系人とは日本から海外へ移住した方々とその子孫です。

私は2010年4月に来日しました。日本に来て最初の悩みは何だと思いますか？それはこの顔です。太っているからではありませんよ。まあ、それもありますけど、それはまた別のお話です。悩みはこのアジアンフェイスです。日本に来てから、日本人の顔をしている私自身がとても嫌になりました。どうしてかと言うと、日本人の名前を持ち、日本人の顔をしていると、誰もが私のことを日本人と思いますよね？思いませんか？周りから普通の日本人として見られれば良いのですが、馬鹿な日本人に見られるのです。もしくは常識のない日本人として見られます。日本人の顔はしていますが、日本で暮らしたことはありません。日本の習慣やマナーも分かりません。だから、日本に来て色々な場所で迷ったり、失礼なことをしたり、恥ずかしい思いを沢山しました。その度に、いつも思っていたことは、もし私が日本人のような顔ではなく外国人のような顔をしていたら、私が日本人ではないって誰もがすぐに分かるから、馬鹿な人間に見られないだろうということです。私がこの日本人の顔で日本の習慣にすぐわかないことをすると、単純に非常識な日本人として見られました。それがとても嫌でした。嫌でたまりませんでした。

私はブラジルで生まれ、育ちました。それでも、ブラジルでは日本人として見られています。それは多分、この目のおかげです。日本人の特徴である小さな目です。小学校の頃に、あるブラジル人の男の子から“破れた目”って呼ばれて喧嘩した記憶があります。喧嘩は勝ちました。殴ってやりました。「破れてなんかいないよ!!」と反論しました。でもすごく悔しかった

です。周りの友達とは顔が全然違う自分が悔しかったです。

ブラジルに住んでいる多くの年配の日系人は、自分たちの子孫の結婚相手は日本人か日系人しか許しません。私はそういう考え方にすごく反発しました。「何故ブラジルで日本人の相手を探さなければならないの？じゃあ、どうして日本で育ててくれなかったの？そうしたら、自然に日本人と付き合うでしょう。当然日本語を喋ることができ、その上、ポルトガル語を勉強する必要もないでしょう。」本当に一時はすごく日本や日本人のことを嫌っていました。

私の留学の目的は大学での研究だけではなく、自分のルーツを知るため、自分のアイデンティティーを見つけるためのものです。それはまだ完全には見つかってはいません。しかし、今では自分が日系人であることを有難いと思うようになりました。日系人だからこそ日本への留学に踏み切り、日本で大勢の友達に囲まれ、数多くのかけがえのない経験によって、成長することができました。そして、日系人としての私の世界観は、日本人よりもブラジル人よりも広がってことに気付きました。更に、留学中もう一つ気付いた一番大切なことは何かと言うと…ブラジルにいる時、私は日本や日本人のことを嫌いだと思っていましたが、実は嫌ってはいなかったということです。海外で生まれた私は、ただ単にずっと日本や日本人のことをうらやましく思っていただけだったのです。



松延さん：写真前列右から2番目



留学生の四季

Quarterly Journal of International Students

本学では、13ヵ国444人(平成22年5月1日現在)の留学生が、遠く故郷を離れ、それぞれの目標に向かって勉学に励んでいます。また、本学では、留学生会が組織されており、留学生同士、日本人学生、地域住民の方々との親睦を深めるため、様々な交流活動を実施しています。



留学生会定例総会
2010年4月27日(水)



留学生就職ガイダンス
2010年6月23日(水)



在留生活指導会
2010年5月14日(金)



香椎祭
2010年10月30日(土)～11月1日(月)



新入留学生懇談会
2010年5月14日(金)



日本語弁論大会
2010年11月27日(土)



新入留学生バスハイク
2010年5月16日(日)



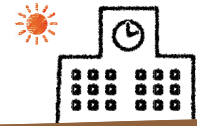
ビジネス日本語講座
2010年12月15日(水)





小学校訪問

Elementary school visit



香椎小学校を訪問した留学生達

香椎小学校

平成 22 年 11 月 9 日 (火)、本学の中国、韓国人留学生 6 名が香椎小学校を訪れ、3、4 年の小学生と交流しました。

留学生は自国の文化や特色、簡単な言葉などを小学生に紹介しました。小学生にとって中国と韓国は近くて遠い国という印象が強い様子で、些細なことも含め、あらゆる質問が留学生に飛び交いました。

その後、留学生と小学生は一緒にゲーム等を楽しみ、お互いに理解を深める国際交流となりました。



経営学部 林 瀚華 (中国)



小学 4 年生との交流



小学 3 年生との交流



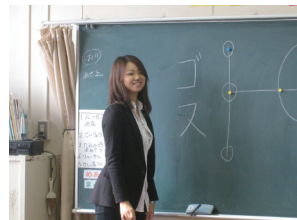
経営学部 孫 慧原 (韓国)



国際文化学部 王 丹 (中国)



国際文化学部 那 佳 (中国)



商学部第一部 金 寶恩 (韓国)



国際文化学部 趙 峴靜 (韓国)

香椎小学校での国際交流の感想



国際文化学部 趙 峴靜 (韓国)

交流当日、私は朝早くからうきうきした気持ちでした。正直、大勢の子どもたちの前でうまく韓国のことを伝えられるかどうかとても心配でしたが、学校に到着した時に笑顔で私たちを歓迎してくれた子供たちの明るい挨拶で少し安心することができました。日本の小学生が韓国について大きな関心を持っていたとは知らなかったのが、驚きと同時に不思議な気分でした。多少答えにくい質問もいくつかありましたが、瞳をきらきら輝かせながら質問してくる純粋な子供たちの姿に、心の中が温くなる気分でした。今回の交流は私にとって大切な一生の思い出になりました。

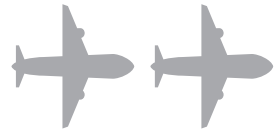
国際文化学部 那 佳 (中国)

子どもたちと交流した日はとても寒い天気でしたが、子どもたちの無邪気な笑顔を見ると、何となく心が温くなりました。子どもたちから「中国の小学校では運動会で何をしますか?」「中国の一番高い建物は何か?」など、色々面白い質問がありました。一緒に行った中国人留学生の林くんが中国武術のカンフーを披露し、王さんは故郷の話をし、中国について深く理解してもらえました。最後に子どもたちがお礼として歌を歌ってくれましたが、真面目に楽しく歌っている幼い顔を見て、私は涙が出るほど感動しました。私は日本に来て五年目になりましたが、小学生と交流したのは今回が初めてでした。今回のように、日本の小学校で子ども達と交流することができたことは、私の人生の中で大切なものとして、ずっと記憶に残ると思います。



平成 22 年度国際交流の歩み

The Chronicle of KSU International Exchange in 2010



平成 22 年度もアメリカをはじめ、中国・韓国の大学から学生・教職員を受入れ、派遣を行いました。この学生交流・教員交流・学術交流を通して、交流協定締結校との友好の絆は、ますます深まりました。なお、本年度の主な国際交流の実績は、以下のとおりです。



上海工程技術大学芸術設計学部研修団受入れ (中国)



蔚山大学校・東西大学校へ学生派遣 (韓国)

受入れ

サイプレス大学 (アメリカ)

日 程:平成 22 年 6 月 4 日(金)～6 月 28 日(月)
 目 的:日米学生間の学習、文化交流と福岡市内での日本文化体験と研修
 受入れ:学生 9 人・教員 1 人
 高橋 真理枝 教授

忠南大学校経商大学 (韓国)

日 程:平成 22 年 6 月 25 日(金)～6 月 29 日(火)
 目 的:学生・教職員交流のため
 受入れ:学生 35 人・教職員 4 人
 Chung Ku-Beom 教授
 Rieu Dong-Min 教授
 Cho Hee-Tae 教授
 Lee Yong-Hoon 職員

上海工程技術大学芸術設計学部 (中国)

日 程:平成 22 年 7 月 15 日(木)～7 月 21 日(水)
 目 的:学生・教職員交流及び芸術学部講義受講のため
 受入れ:学生 22 人・教員 5 人
 王 如儀 教授
 魯 嘉华 教授
 滕 芳 教授
 康 慧 教授
 谢 天 教授

東西大学校デザイン学部 (韓国)

日 程:平成 22 年 7 月 21 日(水)～7 月 24 日(土)
 目 的:学生・教員交流のため
 受入れ:学生 41 人・教員 3 人
 李 東勳 教授
 徐 漢錫 教授
 金 世和 教授

蔚山大学校デザイン大学 (韓国)

日 程:平成 22 年 7 月 21 日(水)～7 月 29 日(木)
 目 的:学生・教職員交流および集中講義受講のため
 受入れ:学生 40 人・教職員 4 人
 全 聖福 教授
 鄭 載旭 教授
 李 武南 職員
 全 玉男 職員

天津大学 (中国)

日 程:平成 22 年 8 月 22 日(日)～8 月 27 日(金)
 目 的:学術・教員交流のため
 受入れ:教員 2 人
 杨 晋生 副教授
 车 延博 副教授

派 遣

蔚山大学校デザイン大学・東西大学校デザイン学部 (韓国)

日 程:平成 22 年 8 月 23 日(月)～8 月 28 日(土)
 目 的:学生・教員交流のため
 派 遣:学生 16 人・教員 2 人
 星野 浩司 准教授
 栗田 融 准教授

忠南大学校経商大学 (韓国)

日 程:平成 22 年 10 月 29 日(金)～11 月 1 日(月)
 目 的:学生・教員交流のため
 派 遣:学生 16 人・教員 2 人
 原 康記 教授
 足立 洋 講師

中国人民大学 (中国)

日 程:平成 22 年 11 月 1 日(月)～11 月 3 日(水)
 目 的:学術・教員交流のため
 派 遣:教員 2 人
 和田 勉 教授
 井手口 敬 教授

今号の表紙

JUNCTION とは 2001 年に国際交流センター報として発行された折りに多文化が合流しようよと命名されました。

今号は、韓国、イギリス、フランスからの交換留学生在が着物着付け体験に行った際に撮影された写真が表紙です。交換留学生在は初めて体験する着物着付けに興味津々で、着物の色鮮やかな和柄の中に日本の文化を感じたようです。

編集・デザイン/芸術学部デザイン学科 鶴田 理紗
 発行/九州産業大学国際交流センター
 〒 813-8503 福岡市東区松香台 2-3-1
 TEL (092) 673-5588 FAX (092) 673-5611
 掲載している職名及び学生の学年は平成 22 年度のものであります。

